

北九州市立特別養護老人ホームかざし園

指定管理者検討会 会議録

1 開催日時 令和7年9月22日（月） 18:00～20:30

2 場 所 北九州市役所庁舎 15D会議室

3 出席者 （検討会構成員）

中野構成員、中村構成員、富田構成員、森野構成員、野村構成員
（事務局）保健福祉局介護保険課
介護サービス担当課長、施設整備担当係長、担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出
- 応募団体によるプレゼンテーション及び質疑応答

（1）応募団体との質疑応答について

ア 社会福祉法人暁会 質疑応答概要

（構 成 員） 介護テクノロジーの活用とは、利用者の手に時計型デバイスを装着し、その脈拍から健康状態を把握するようなものであるのか。

（応募団体） 弊会で導入しているのは、ベッドにセンサーを設置し、利用者の呼吸数や脈拍の状態を把握する製品や、専用のおむつにセンサーを装着して排尿状況を確認できる製品などである。ただし、弊会が指定管理者になった場合には、現行のシステムをそのままかざし園へ導入するのではなく、入居者の状態像を十分に把握した上で、最適な製品を選定・導入する方針である。

（構 成 員） 介護業界における深刻な人手不足の解消には、相応の給与を確保することが必要である。貴会の人員配置計画において、給与はどのような算出根拠に基づいて設定されているのか教えてほしい。

（応募団体） 人件費については、計画作成時におけるかざし園の実績を参考に算出した。今年度の賃金上昇率を基に算出すると変動が大きくなるため、基本給は抑えた設定とし、状況に応じて手当で対応することを検討している。

（構 成 員） 外国人の雇用状況について教えてほしい。

（応募団体） 外国人労働者を複数名雇用している。今後の運営においては、外国人労働者の受入れなしには成り立たないと認識している。

（構 成 員） 介護テクノロジー等の活用は職員の負担軽減に繋がるということだが、最終的にそれば利用者にとどのように繋がるのか教えてほしい。

（応募団体） 例えば、専用のおむつに装着するセンサーは、夜間の排泄ケアに効果を発揮している。これまでは排尿習慣を把握して排泄ケアを行っていたが、パッドに排尿がないにも関わらず交換せざるを得ない状況があった。排尿状況を可視化することで、利用者の睡眠の質を高めることが可能である。介護テク

ノロジーは人手不足の代替手段という側面が先行しがちであるが、それは二次的なものであり、本来は入居者の生活の質の向上に資するものとする。

(構 成 員) 貴会の提案において、特に高く評価できる点は、認知症高齢者ケアに関する人員配置や情報共有の方法である。

(応募団体) 介護テクノロジーを活用することで、職員が利用者と直接関わる時間を増やせるという大きなメリットがあると認識している。認知症ケアにおいては、利用者に寄り添う姿勢が極めて重要である。利用者自身も課題解決に取り組む専門職であるという考えのもと、共に課題解決に取り組んでいくことが大切であると考えている。

(構 成 員) 施設を運営するにあたり、責任者の力量が非常に重要である。グループ間の調整役を担うだけでなく、現場の中間管理職のスキル向上についても何か特徴的な取り組みがあるのか教えてほしい。

(応募団体) 経験豊富な職員の雇用を重視しており、特に認知症ケアに精通した人材を配置したいと考えている。各グループを横断して認知症ケアをつなぐ役割を担ってもらう予定である。また、これらの職員がケアマネージャーの資格を有することで、ケアプランにより直接的に反映させることができ、各専門職との連携のハブ機能を果たすことが可能となり、これが理想的な体制であると考えている。

(構 成 員) データは蓄積していると思うが、他の施設との比較も行っているのか。個々の利用者の特徴が、施設全体の傾向として表れることもあると考えられる。

(応募団体) 科学的介護情報システム（LIFE）の活用がそれに該当すると考えている。LIFE の導入から数年が経過し、ビッグデータが蓄積されてきた。これを活用し、ケアプランの作成や認知症ケアに取り組んでいる。他施設との情報共有については、会議の中で事例として共有することがある。

(構 成 員) 食事は利用者にとって大きな楽しみの一つである。貴会ではクックチル食品を既に取り入れているが、利用者の満足度は高いと言えるか。

(応募団体) かざし園では季節感を重視し、多様な食材を取り入れた食事を提供しており、今後も継続する方針である。しかし人材不足の場合は、クックチル食品の導入も検討している。弊会が運営する他施設では一部でクックチル食品を利用しているが、季節感や彩り、香りを重視しており、品質も均一である。ソフト食やミキサー食など、多様な食形態にも対応している。月に一度の行事食もあり、四季折々の献立で利用者から大変喜ばれている。

(構 成 員) 貴会では、かざし園で実施されている「まちかど介護相談室」のような取り組みを行っているのか。

(応募団体) 看護職などが認知症カフェでの相談コーナーを運営している。自治会などでもセミナーの開催や体操教室への協力など、日々取り組んでいる。

イ 社会福祉法人北九州市福祉事業団 質疑応答概要

(構 成 員) 近年、介護業界では人手不足が深刻であり、人材の確保が重要である。職員の定着について教えてほしい。

(応募団体) 職員の採用に関しては「待っているだけでは駄目である」という意識を持ち、積極的に取り組んでいる。具体的には、法人説明会やホームページによる情報提供、職場見学を積極的に実施している。内定者には、内定後も定期的に連絡を取り、心身の状態を確認するなど、多様な工夫を凝らしている。

これにより、他の法人とは異なる魅力を打ち出し、「ここで働きたい」と思ってもらえるよう努めている。

(構 成 員) 人手不足に対応するため、介護テクノロジーなどの活用は重要である。介護テクノロジーをどのように取り入れているのか、具体的な取り組みについて教えてほしい。

(応募団体) 当法人の提案は、事務関係の ICT 化を主軸としている。具体的には、介護記録ソフトや議事録ソフトの導入、会議のオンライン化、法人内の PC の入れ替えなどを実施している。

(構 成 員) 非正規職員に対して個人の都合に配慮した勤務表の作成は、人材確保や職員の定着に有効であると考えます。このような取り組みについて検討しているか教えてほしい。また、施設側と働き手双方のスケジュールを尊重したマッチングソフトが開発されており、これを活用することで人材確保に繋がる可能性があるのではないかと考える。なお、かざし園がある地域は高齢者が多いが、これについての見解も教えてほしい。

(応募団体) かざし園では入浴支援を専門に行う人材を雇用している。また、特定の業務に従事する高齢の職員も雇用している。これにより、他の職員の休暇取得を促進するとともに、業務負担の軽減にも繋がっている。

(構 成 員) 引き続き指定管理者となった場合、介護の質の向上において何を目標としているのか教えてほしい。また、「こころのリハビリ」に効果があったと聞きますが、具体的な評価方法についても教えてほしい。

(応募団体) 「こころのリハビリ」では、利用者個々の状態に合わせた多様なクラブ活動を提供している。その結果、徘徊や異食が顕著であった認知症利用者に穏やかな変化が見られ、精神薬の投与が減少する事例もある。生活リズムの改善により周辺症状が緩和され、外出機会の増加にも繋がっている。評価指標としては介護度の変化に加え、長谷川式スケールの点数変化を用いて改善度を測定している。

(構 成 員) BPSD（行動・心理症状）が改善しても認知機能の中核症状は改善が難しいこともある。次世代の介護についてどのような提案があるのか教えてほしい。

(応募団体) 法人内には変えるべき部分と継続すべき部分がある。引き継いだものは形を変えつつ時代に合ったものに変えていき、変えるべきでないものはそのまま継続する。また、職員の専門性を高めるための研修や資格取得のための長期休暇取得の奨励も続けており、資格を持ったプロ集団を育成したい。知識だけでなく技術も重要であり、技術は人から人へ伝えていくものである。今後も、人材育成に努めていく。

(構 成 員) 認知症利用者の意思を尊重する取り組みは行っているか。食事やこれまでの人生、要望についてどのように配慮しているのか。介護度が改善しているとのことだが、それは目に見える効果があるのか。意思を尊重することには苦労もあると考える。

(応募団体) 利用者を尊重するためには、その人を知り、よく観察し、生き様や生活習慣を理解することが重要である。書道クラブで達筆な利用者もいる。得意なことをを見つけることが職員の仕事であり使命である。得意なことがあると、自らトイレに行き、食事も摂るようになり、介護度が改善することがある。

(構 成 員) 寝たきりや認知症の方もいるが、その方が生きてきたものを大切にする姿勢は素晴らしい。これを継続していくために何が大切か。

- (応募団体) 職員アンケートを実施し、人材マネジメント方針を策定した。また、職員の紹介制度も導入している。人材の確保・育成・定着が全てであり、まずは職員を大切にして離職を防ぎたい。ICTなどの導入は、職員の負担軽減に繋がるとともに、職員が利用者と向き合う時間を増やすためである。職員が満足すれば必ず利用者へのサービスに良い影響を与えていると考えている。
- (構成員) 平均入居率も満足度も高い。それだけの実績があり評価できる。
- (応募団体) 入居率は維持しているものの、競合施設も多いという現状がある。全国的に見ても、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の定員数が特別養護老人ホームを上回り、特養の待機者数も減少傾向にあるため、競合との差別化が必要である。当施設は従来型という側面を持つが、職員確保に加え、ソフト面でのサービス強化に努め、利用希望者を確実に確保したい。
- (構成員) 貴法人の障害者施設や児童福祉施設において、職員の施設間ローテーションは可能か。業務内容に共通点があれば、特定の施設に固定されることによるマンネリ化防止の効果が期待できる。
- (応募団体) 他設においても利用者の高齢化が進み、介護職員の配置が必要であると認識している。ただし、本人が関心を持ってない業務への配置は離職に繋がる可能性が高いため、個別の丁寧なヒアリングを通じて本人の意向を最大限尊重する。特に若い職員の育成に注力し、他施設への派遣も含めて検討している。

(2) 構成員の意見交換について

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換。
- 意見交換概要
 - ア 社会福祉法人晩会
 - ・ 介護テクノロジーを積極的に導入し、経験の浅い職員でも介護しやすい環境を整備するとともに、人材確保にも効果的な手段となっている点は評価できる。
 - ・ これまでの努力に加え、新たな課題にも前向きに挑戦しようとする姿勢がうかがえる。
 - ・ 今後ますます重要となる分野への対応にも意欲的であり、さらなる成長が期待される。
 - ・ 認知症ケアにおいて、利用者に寄り添う姿勢を大切にしており、細やかな人員配置や工夫がなされている。
 - ・ 備品購入などの初期費用が増加するため、今後の経営への影響が懸念される。
 - ・ 北九州市での介護施設運営が初となることから、地域の特性、利用者の特徴、現場環境等の把握に関して懸念がある。
 - イ 社会福祉法人北九州市福祉事業団
 - ・ 長年にわたる管理運営の実績と培われた経験は、利用者やその家族に高い安心感を与えている。
 - ・ 日々の業務に根差した信頼性が感じられ、プレゼンテーションからは地域の実情や利用者のニーズを的確に把握しようとする姿勢が強く伝わる。
 - ・ 工夫を凝らした食事の提供や、利用者の希望や自己決定を尊重したサービスにより、生活の質の向上が図られている。

- ・ 利用者・家族アンケートの結果でも非常に高い満足度を獲得している。人材確保が困難な現状において、現在の高い満足度を維持し続けることを期待する。
- ・ 介護は人と人との関わりであり、人材育成が重要であるとの認識に基づき、実践を通じた経験を重視している。
- ・ 事務の ICT 化にも意欲的に取り組んでおり、今後さらなる推進が期待される。

○ 検討会としての検討結果（総合的な所見）について

社会福祉法人暁会については、隣接する市立門司病院の指定管理者であるグループ法人との医療連携に期待が持てる点、介護テクノロジーの積極的な導入による職員の負担軽減が見込まれる点などが評価されたものの、今後の経営状況の不透明さや、地域の特性・利用者の特徴・現場環境等の把握には懸念が残った。

一方、社会福祉法人北九州市福祉事業団は、長年にわたり特別養護老人ホームかざし園の管理運営を担っており、その豊富な実績に基づく提案は具体的で説得力がある。また、提供する食事の質の高さは利用者の満足度に大きく貢献している。さらに、利用者の希望や自己決定を尊重する姿勢は生活の質の向上につながっており、42 年間にわたり地域に根差して築いてきた関係性や、現場の実情を把握してきた経験は、利用者に安心感や信頼感を与え、高く評価できる。

総合的に勘案した結果、地元団体に対する優遇措置として 5 点を加算した合計 89 点を獲得した社会福祉法人北九州市福祉事業団が最高点となった。このため、社会福祉法人北九州市福祉事業団を指定管理者候補者としてふさわしいと判断する。

○ 意見交換を行った後、各構成員の採点結果を取りまとめ、検討会を終了した。